

主題「美術と社会の関わりについて探究し、新たな価値を創造することができる生徒」の育成

1 主題設定の理由

美術科は、表現及び鑑賞の活動を通して造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中での美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成し、人間形成の一層の深化を図るものである。学習指導要領解説美術編（2019）にある美術の目標には、「心豊かな生活を創造していく態度」「豊かな情操を培う」などがあり、これらは「幸福な人生」を送る上で大切なものだと考える。また、「豊かな情操を培う」ことについて、「このような美術の学習は、主体的な創造活動を通して、（中略）一層豊かに育っていくことになる。」ともある。美術科の学びが「よりよい社会」や「幸福な人生」につながっていることを明確に意識できれば、自ら課題を設定し、自らの学びに対して責任をもって、新たな価値を創造する探究的な学びに取り組むことができるだろう。しかし、美術と「幸福な人生」との関わりを見いだすことはできても、美術と「よりよい社会」との関わりを見いだすことは、きっかけが無ければ考えもしないのではないだろうか。美術と「よりよい社会」との関わりについて探究していくことが、新たな価値を創造する探究的な学びにつながり、美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力の育成につながると考える。

以上のことから、美術と「よりよい社会」との関わりを探究したり、題材全体を見通したりする探究的な学びを実現するための具体的な手立てを通して、「美術と社会の関わりについて探究し、新たな価値を創造することができる生徒」の育成を目指して研究を進める。

2 探究的な学びを実現するための具体的な手立て

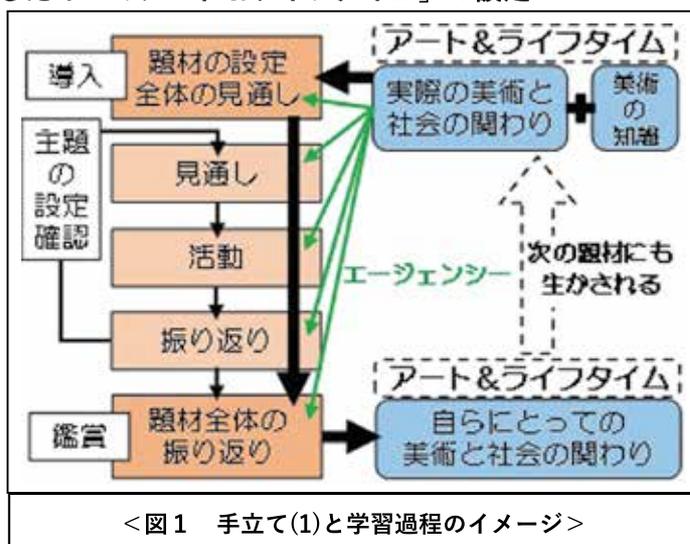
(1) 美術と「よりよい社会」の関わりを探究するための「アート&ライフタイム」の設定

「アート&ライフタイム」とは、美術と「よりよい社会」との関わりについて生徒が探究する場面のことである。生徒が美術の時間で学習したことを生活や社会の場でどのように役立てられるかを自ら考える機会を設ける。それを基に自らの主題を生み出したり、構想検討をする際の基準の一つと意識したりすることで、生徒が美術と「よりよい社会」の関わりを実感することに繋げることができる。考える。

題材の導入の「アート&ライフタイム」では、色や形が人にもたらす効果や、デザインによる「よりよい社会」への影響など、学習した美術の知識と実際の「よりよい社会」との関わりについて考える。そうすることで、興味や疑問から新たな表現の発想を得たり、題材全体を通して発想や構想が「よりよい社会」とどう関わらせるかを考え続けたりすることができるだろう。また、題材最後の鑑賞で改めて「よりよい社会」との関わりについて生徒が検討し合うことで、自らにとっての美術と「よりよい社会」の関わりがより明確になり、エージェンシーを発揮しながら美術科の活動に取り組むことができるようになっていくと考える。

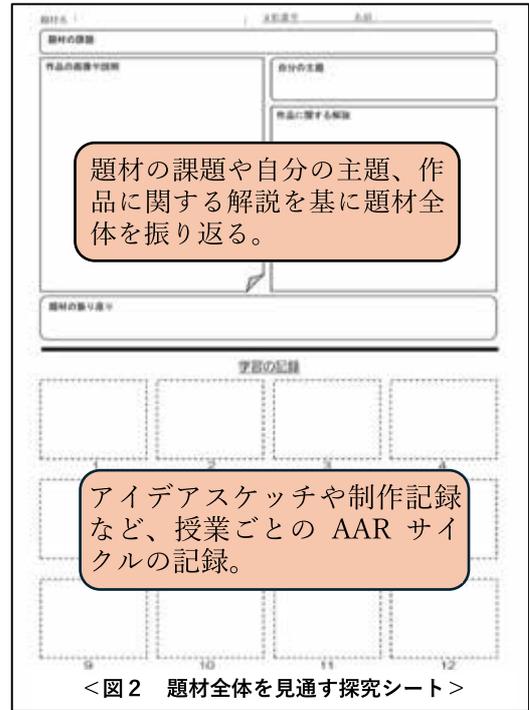
(2) 題材全体を見通すことができる探究シートの活用

新たな価値を創造するためには、AAR サイクルを繰り返すことが必要である。これまでの研究では、



<図1 手立て(1)と学習過程のイメージ>

授業ごとの活動内容を記録した制作記録を継続して続けることで、週一回で行われる美術の授業の連続性を維持し、授業ごとの活動や工夫を深めることができるような手立てを実施してきた。今年度は題材全体における生徒の活動過程を一目で確認できる探究シートを作成し、その中に授業ごとの制作記録としてのAARサイクルを記録できるようにする(図2)。それによって生徒は授業ごとに導入で設定した課題を意識し、設定した方向性に向けて活動できているか能動的に確認し、修正していくことができるだろうと考える。それぞれの生徒が自分の活動を調整しながら探究を進めることで、最後の鑑賞では授業時間ごとの成果をつなげながら新たな価値を創造し、自らの課題を解決することができたか互いに検討することができるようにする。



<図2 題材全体を見通す探究シート>

### 3 授業実践例

(1) 題材 「あかりがつくる空間」

(2) 実施時期／学年／配当時間

令和6年1学期／第3学年／全10時間

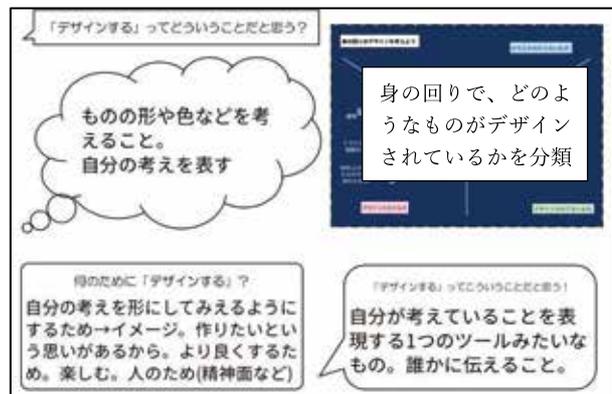
(3) 題材の目標

あかりの役割や人に与える効果に関心をもち、形や色、素材などが心にもたらす効果や目的と美しさの調和を考え、郷土の魅力を伝えるあかりのデザインの表現を創意工夫する。

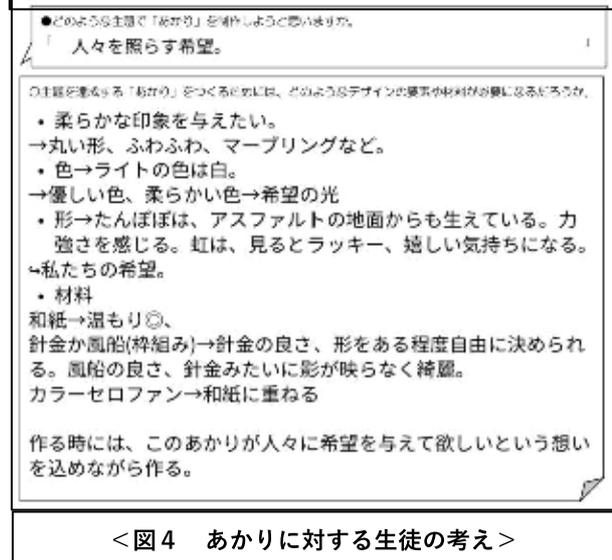
(4) 実践の概要

第1時の授業の導入では、「アート&ライフタイム」として「デザインする」とはどのようなことを考える時間を設定した。生徒たちは現状も自分たちの価値観を基に「考えや信念を世に伝える」「自分が想像したものを創造する」など、思い思いに「デザインをする」ことについて定義をし、それを基に身の回りにどのような「デザインされている」ものがあるかを考えた。また、それらが何のために「デザインされている」かを考えることで、生徒たちからは「生活を豊かにする」「デザインを楽しむ」「人に役立つ」などといった考えが生まれた(図3)。

第2時でも「アート&ライフタイム」を継続し、「あかり」の光や色、ランプシェードの形、素材、設置された場所などがどのように自分たちの生活と関わっているかを考えた。光の色の違いによる空間の感じ方など、「あかり」のイメージや空間に合わせて必要な素材を選択し、様々な視点から「あかり」について考察することでその有用性を考えながら自分のアイデアに取り込むことができた(図4)。第1、2時の「アート&ライフタイム」を通して、生徒たちはデザインをすることの必要性和「あかり」の光や色の効果と「よりよい社会」との



<図3 デザインやあかりに対する生徒の考え例>



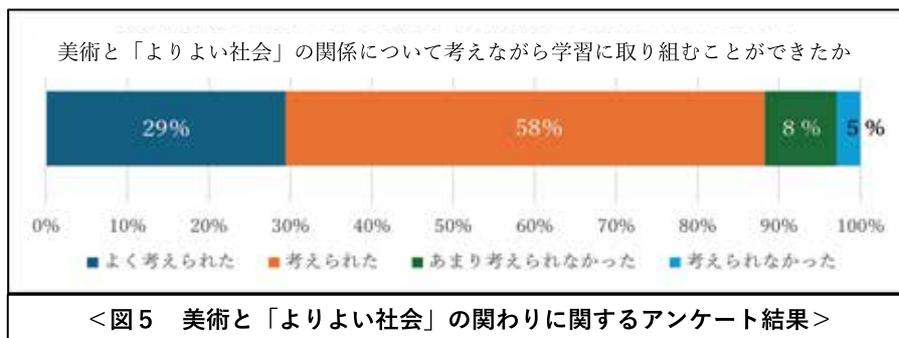
<図4 あかりに対する生徒の考え>

関わりを考え、それらを基に生徒は自分の課題を設定することができた。

第8時では、これまで学習を記録してきた「探究シート」を基に題材の課題や生徒それぞれの主題の達成に対するまとめを行う時間を設定した。生徒たちは、第2時で設定された「あかり」をデザインすることに関する題材の課題や各自が自ら表現したいと考えたそれぞれの主題を、これまで記録してきた制作記録と照らし合わせながら自己分析を行った。「前回考えていたことを思い出したり、次回どうしようか考えたりしながら進めることができた」「試行錯誤する中で今までと別の視点に気づき、新しい価値観が生まれた」など、生徒は「探究シート」の記録によって最後まで課題や主題に沿い、この先どのように制作していくか見通しをもちながら取り組もうとする姿が見られた。

#### 4 研究の成果と課題

成果として、『美術と「よりよい社会」の関わりについて考えながら学習に取り組むことができたか』というアンケート調査を行ったところ、87%の生徒が「よく考えられた」「考えられた」と回答した（図5）。



<図5 美術と「よりよい社会」の関わりに関するアンケート結果>

「アート&ライフタイム」は、生徒の「よりよい社会」における美術の必要性に対する意識を高めることができ、エージェンシーを発揮しながら美術と「よりよい社会」の関わりを探究するために有効であったと考えられる。また、生徒の「探究シート」には、「自分がどのようなことを表現したいのか、自分の思いを基に修正しながら作ることができた」「途中で最初のアイデアが難しいと思って変えたが、新しい考えも気に入ったものになった」などの記載が見られた。一度失敗しても既存のアイデアを新しい考えで修正したり、新しい別のデザインをよりよいものとして生み出したりして、それぞれの生徒が新たな価値を創造することができていた。このように、毎時間題材全体の流れを意識し続けながら活動することで、アイデアや制作における改善点を考え、自ら AAR サイクルを回しながら新しい価値を生み出し、責任をもって課題を解決することができたと考える。

課題としては、新たな価値を創造するための制作時間の確保が挙げられる。生徒の「アート&ライフタイム」の時間に関する意見として、「試行錯誤によって制作時間が減ってしまった」というものがある。限られた時間の中で学習の見通しをもち、何を試行錯誤して情報を得るか、得られた情報をどう活用するかなどを生徒が身に付けられるようにすることが必要だと考える。

#### 5 今後の展望

「アート&ライフタイム」によって、生徒はエージェンシーを発揮して AAR サイクルを回し、美術と「新しい社会」の関わりを踏まえ、最後まで生み出した自らの主題を追求し、自分なりの新しい価値を創造することができるようになってきている。本研究を継続していくとともに、「探究シート」のよりよい活用方法を模索するために実践を積み重ねることで、生徒が美術科におけるよりよい AAR サイクルの回し方を身に付け、更に新たな価値を創造していけるよう研究を継続していきたい。

#### <参考文献>

群馬県教育委員会（2019）『はばたく群馬の指導プランⅡ』  
竹内 晋平（2023）『中学校美術新3観点の学習評価完全ガイドブック』明治図書出版  
三澤 一実・田中 真二郎他（2021）『美術の授業のつくりかた』武蔵野美術大学出版局  
文部科学省（2018）『中学校学習指導要領解説 美術編』 学校図書  
山崎 正明（2022）『中学校美術指導スキル大全』明治図書出版